



主な内容

- 特集—— エフエム岩手ラジオ番組「いのちから」  
トピックス—— 薬学部講義「医療倫理とヒューマニズム」が行われました  
医療専門学校でオープンキャンパスが行われました  
フリーページ—— すこやかスポット医学講座No.80  
「頭頸部癌は予防できる？」

表紙写真：花巻市湯本「釜淵の滝」(2017.6.29 撮影、解説はP8)

## 特集



# 岩手医科大学

～いのちから～

花粉症

お酒

こころ

糖尿

お薬

血圧

虫歯



平成 25 年 10 月に放送を開始したエフエム岩手ラジオ番組「いのちから」(毎週日曜日 9:30～9:55)は、「医の力」「命から」をテーマに、大学広報はもとより、県民の関心の高い健康等に関する有益な情報を発信し、地域医療の一層の充実を図ることを目的としたものです。私達の身近な医療や健康に関する情報、本学が実践している最先端の医療などについて、本学の教職員が分かりやすくお伝えしています。

今号では、これまでの放送を振り返るとともに、リスナーからのメッセージや番組制作を担当するエフエム岩手の小田加代子さん(ナビゲーター(聴き手))と鈴木清恵さん(技術担当)をご紹介します。

## 間もなく放送 200 回目を迎える「いのちから」

第 1 回目の放送は、平成 25 年 10 月 5 日、12 日の 2 週にわたり小川理事長から本学の歩みや東日本大震災津波からの復興に向けた取り組み、そして総合移転整備事業の展望についてお話を頂きました。続いて 19 日の放送では、当時、いわて東北メディカル・メガバンク機構長の祖父江学長から、機構発足から 1 年が経ち、事業の進捗状況や今後の展望についてお話を頂きました。また、小林副学長(当時医学部長)には平成 26 年 4 月 6 日放送「本学が果たす地域医療の役割について」、三浦副学長・歯学部長には平成 26 年 1 月 11 日放送「最新の歯科治療について」の他、計 3 回にご出演を頂きました。

本学にとって平成 29 年は創立 120 周年を迎える記念すべき年となり、幸運にも元日が放送日である日曜日にあたりました。その放送では、小川理事長にご出演を頂き「岩手医科大学創立 120 周年～誠のあゆみ、未来へつなぐ～」と題し、2 週にわたり創立 120 周年への思いを伝えて頂きました。

これまで、199 回(平成 29 年 7 月 30 日現在)にわたり放送を続けてきました。ご多忙の中、多数の教職員の方々にご出演を頂き、リスナー目線に立った小田さんからの質問に対し、分かりやすく丁寧にご回答を頂きました。リスナーの方々からも多数のメッセージが寄せられ、放送への関心の高さを伺うことができました。

次のページでは、リスナーからのメッセージをご紹介します。



小川理事長(平成25年10月5、12日放送)



祖父江学長(平成25年10月19日放送)



高橋副栄養士長(平成29年4月9日放送)



諏訪部教授(平成29年4月16、23日放送)



三浦看護部長(平成28年9月25日放送)

## リスナーからのメッセージ（一部抜粋）

- テーマ：パーキンソン病について** 出演：内科学講座神経内科・老年科分野 特任准教授 前田哲也 先生  
パーキンソン病は意外と身近な病気なので、興味深く聞きました。服薬やリハビリテーションだけではなく、手術ができることを知り、医学が進歩していると感じました。早期受診の重要性を実感しました。
- テーマ：インプラント治療について** 出演：補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野 教授 近藤尚知 先生  
インプラント治療をする事になり、医大の歯科医療センターをセカンドオピニオンとして受診しました。たまたま今日の放送を聞いてみて、僕の受診している歯科と方法が少し違っていたりと、気になる所もありためになりました。この違いを先生に聞いて安心して治療に取り組みたいと思います。
- テーマ：歯科麻酔科について** 出演：口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野 教授 佐藤健一 先生  
リラックス外来の話に興味深く聞かせていただきました。歯科治療を安心して受けられるようになっている体制を知ることができました。医科と連携して、歯科医療を進めていることも大変すばらしいと感じました。これこそが、岩手医科大学ならではの「いのちから」ではないでしょうか。
- テーマ：健やかな毎日を送るために** 出演：人間科学科心理学・行動科学分野 准教授 相澤文恵 先生  
リフレーミング\*の意味を知り、私も考え方を改めてみたいと思いました。今までの自分とは全く異なる思考になりそうですが、先生のお話されていたトレーニングを積んで、少しでも楽しい日々を送ることができるようになりたいと思いました。素敵なお話をありがとうございます。 ※リフレーミング…言葉や知識などの意味づけや、考え方の枠組みを変えること
- テーマ：今日から始めよう減塩生活** 出演：栄養部 副栄養士長 高橋一枝さん  
高血圧と診断され、まさに減塩について真剣に取り組んでいる最中です。今まで何も気にせずに多くの塩分を取り続けていた結果こうなってしまいました。今後の食生活の方法を教えてください、とても参考になりました。塩分を薄めるだけではなく、元から減らす生活を心がけたいと思いました。

## 番組を支えるアナウンサーの小田加代子さんと鈴木清恵さん

これまで「いのちから」をリスナーに分かりやすく、そして聞きやすく放送を続けることができた背景には、二人のアナウンサーの支えがありました。

ナビゲーターの小田加代子さんは現在フリーアナウンサーで、「いのちから」の他にも様々な番組でナビゲーターを務められており、リスナー目線に立った聴き方と穏やかな口調で番組を進行しています。技術を担当する鈴木清恵さんは、エフエム岩手放送部のアナウンサーで、本学創立120周年記念式典・祝賀会でも司会を務めて頂きました。収録の際は、重い機材を収録場所まで運び集音作業を行った後、ラジオ局に戻り編集作業を行っています。

お二人から「いのちから」へのメッセージを頂きましたのでご紹介いたします。



（左から）小田さんと鈴木さん

### ～小田加代子さんからメッセージ～

いつも大変お世話になっております。最近「いのちからを聴いています！」と声をかけていただくことが多くなりました。放送時間に合わせてラジオのスイッチをONにしている方もいらっしゃるそうです。嬉しいですね。番組では、確かな情報を分かりやすくお伝えするのはもちろんですが、ご出演頂く先生方のお人柄がにじみ出るようなインタビューを心がけております。これからもどうぞよろしくお願い致します。

### ～鈴木清恵さんからメッセージ～

「いのちから」の収録は、私の楽しみの一つです。毎回、各分野のエキスパートの先生方に「タイムリーなテーマで」分かりやすくお話を頂き、とても感謝しております。また、リスナーからもお礼や質問メールなどが多く寄せられ、皆さんの「QOLの向上意識」の高まりをヒシヒシ感じております。私自身とても勉強になっていて、今や「いのちから」の収録は、待ち遠しいお仕事です。今後も、岩手医科大学さまとリスナーのかけ橋のお手伝い出来るよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願い致します。



編集作業中の鈴木さん

## おわりに

企画調整課では、教職員の皆さんから、番組への出演依頼をお待ちしております。県民に対し、本学が有する「いのちから」を発信し、地域医療の更なる発展・向上を目指していきたいと思っておりますので、ご協力の程どうぞよろしくお願い致します。

【番組制作担当：企画調整課 内線（7023）】

## 薬学部講義「医療倫理とヒューマニズム」 ～薬害を学ぶ、薬害から学ぶ～が行われました

5月31日(水)、薬学部において4学年を対象にサリドマイド被害者本人である、増山ゆかりさんの講義「薬害サリドマイドから学ぶ」が行われました。ご自身は、北海道で出生後すぐに東京の病院へ入院となり、その後施設での生活を余儀なくされました。物心ついた頃に初めてご両親と面会ができ、ご両親が受け入れてくれたことなど成長の経緯のお話がありました。

講義の途中、ご主人が撮影したご自身の若かりし頃の映像を流され、その中で人生を振り返るように、亡くなったご両親との思い出を話されていました。特にお母さんが亡くなる際に、一番の被害者は母だったと改めて気付かされたことなど体験談を話されました。

その話に吸い込まれるかのように学生は熱心に聴講し、中には涙を見せる学生の姿もありました。また時折、「副作用と薬害の違いは何でしょうか?」と質問され、学生は必死で答えていましたし、「沈黙の加担」、「薬1錠の先に、その人の人生がある」、「薬剤師になる皆さんはそのことを忘れないで欲しい」など、普段聞き

慣れない言葉が学生の印象に残ったようです。薬の回収に必要な「科学的根拠」とはすなわち「被害の蓄積」ではないか?と問われ、普段学んでいる「科学的根拠」の意味を深く考えるきっかけにもなった様子でした。

薬害被害者から直接お話を聞く貴重な経験をして、多くのことを学んだ授業でした。

(地域医療薬学講座教授 高橋 寛)



## ウェルかむ2017が行われました

6月9日(金)、歯科医療センターにおいて、歯と口の健康週間にちなんだイベント『ウェルかむ2017「おいしい」と「元気」を支える丈夫な歯』が行われました。

イベントでは、各診療科によるパネル展示や栄養部による試食、歯科材料(石膏)を用いた人形のプレゼント(写真)、唾液測定によるストレスチェック、歯科用CAD/CAM\*の体験コーナーなどが設けられ、一般市民の方々や教職員が歯の健康に関する知識を深める機会となりました。

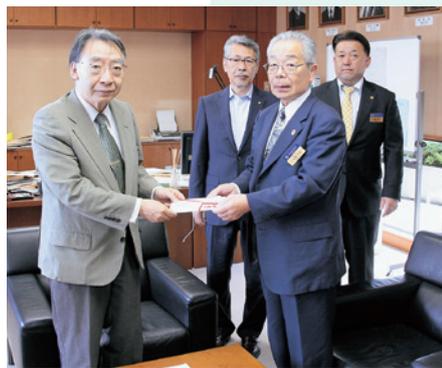
\*コンピュータによる歯冠修復物や  
口腔インプラント等の設計・製作



## ライオンズクラブ国際協会様から 本学眼球銀行へ寄付金が贈呈されました

6月22日(木)、ライオンズクラブ国際協会332-B地区の地区ガバナーである金野幸造様が来学され、本学眼球銀行(岩手医大アイバンク)に約158万円のご寄付がありました。同協会からの寄付金は、アイバンクの啓発活動や角膜移植に使用される角膜摘出の費用などに充てられ、一人でも多くの方が光を取り戻すために活用されています。

アイバンク総裁の祖父江学長からは、「目の不自由な方に役立てたい」として、同協会へ感謝状を贈呈しました。



## 医療専門学校でオープンキャンパスが行われました

第1回オープンキャンパスが5月27日(土)に、第2回オープンキャンパスが6月24日(土)に医療専門学校上ノ橋校舎で開催され、歯科衛生学科と歯科技工学科の両学科を合わせて、高校生と保護者など約40名が参加しました。

当日は学科別に職業紹介や体験実習、在学生とのフリートークなど多くの企画が用意され、好評を博しました。参加した高校生の中には進学を決めた学生もあり、有意義な機会となったようです。



<歯科衛生学科>

### 【今後のオープンキャンパス開催予定日】

- 第5回 8月19日(土)
- 第6回 10月7日(土)
- 第7回 12月2日(土)

歯科衛生学科：10時から12時  
歯科技工学科：9時30分から12時30分



<歯科技工学科>

## 解剖体慰霊祭が行われました

6月24日(土)、矢巾キャンパス大堀記念講堂において第80回解剖体慰霊祭が厳かに執り行われ、祖父江学長をはじめとする本学教職員・学生と御遺族が参列しました。

慰霊祭は85霊の御尊名奉読に続いて、祖父江学長による祭詞、学生を代表して医学部3年の佐藤哲弥さん(写真)から慰霊のことが捧げられました。最後に参列者全員による献花が行われ慰霊祭は終了し、続いて生前よりご自分の意思で献体登録され成願された故人への文部科学大臣感謝状伝達式が行われ、御遺族に感謝状と御遺骨が返還されました。



## 「七夕さんさ会」が行われました

7月7日(金)、花巻温泉病院で「七夕さんさ会」が行われました。この会は、患者さんの一日も早い回復の祈念と盛岡さんさに向けた練習成果の披露を兼ねて、例年7月の七夕会に合わせて開催されています。

当日は天候にも恵まれ、職員が「七夕くずし」「栄夜差踊り」「新花巻温泉音頭」を披露すると、踊りに合わせた患者さんの手拍子が会場内に鳴り響き、お祭りながらの活気あふれる催しとなりました。



# 学校法人岩手医科大学

## 平成28年度決算

消費税増税や建築資材などの高騰が、附属病院移転計画を含む本学の経営に大きな影響を及ぼしている中、財政基盤の更なる強化に努めなければなりません。

このような環境下において、本学は教育・研究・医療の活性化と質的向上を目指し、各事業を推進しています。創立120周年記念事業関係では矢巾新病院の実施設計が完了

し、また、看護学部の校舎整備などを行いました。そして、医療関係では病院各種機器の整備などを行いました。

平成28年度事業活動収支決算は、学生生徒等納付金及び医療収入などが増加した一方、補助金収入が減少し、さらに人件費や医療経費などの諸経費の増加により、当年度収支差額△33億903万円を計上しました。

### 1. 事業活動収支

#### (1) 事業活動収入

事業活動収入の合計額520億1,399万円は、前年度比13億9,092万円(2.6%)減少、予算比では8億8,873万円(1.7%)下回りました。

- ①学生生徒等納付金86億3,294万円は、前年度比1億6,974万円(2%)増加しました。主な増加要因は、岩手看護短期大学の開設に伴う学生数の増加によるものです。
- ②医療収入352億2,303万円は、前年度比11億7,406万円(3.5%)増加しました。附属病院医科の医療収入は、前年度比4億7,766万円(1.8%)の増加、歯科医療センターは3,019万円(2.4%)の増加、循環器医療センターは8億7,283万円(20.1%)の増加、花巻温泉病院は1億5,196万円(13.4%)の減少、PET・リニアック先端医療センターは5,467万円(14.2%)の減少となりました。
- ③補助金合計額は、36億7,414万円の前年度比26億3,516万円(71.7%)減少しました。教育活動収入の経常費等補助金35億1,317万円は前年度比11億2,466万円(24.3%)減少し、国庫補助金として私立大学等経常費補助金19億9,041万円、医療研究開発推進事業費補助金(いわて東北メディカル・メガバンク機構)5億911万円等、地方公共団体補助金として高度救命救急センター運営費補助金2億5,619万円、岩手県ドクターヘリ運航事業補助金2億3,362万円等がありました。特別収入の施設設備補助金1億6,097万円は前年度比15億1,050万円(90.4%)減少し、地方公共団体補助金として医療情報連携推進事業費補助金(岩手県)6,047万円、岩手県高度救命救急センター設備整備費補助金(岩手県)5,000万円等がありました。

#### (2) 事業活動支出

事業活動支出の合計額501億5,679万円は、前年度比4億9,802万円(1.0%)増加、予算比では1億7,250万円(0.4%)上回りました。

- ①人件費216億9,261万円は、前年度比6億4,503万円(3.1%)増加しました。給与、賞与、所定福利費の合計201億8,601万円は、前年度比5億6,429万円(2.9%)増加し、退職金と退職給与引当金繰入額の合計14億4,869万円は、前年度比5,369万円(3.9%)増加しました。
- ②医療経費148億1,109万円は、前年度比3,571万円(0.2%)増加しました。医薬品費は、前年度比6,421万円(0.8%)の減少、医療材料費は9,584万円(1.5%)の増加、給食材料費は408万円(1.7%)増加しました。医療収入に対する医療経費割合は42.1%となり、前年度の43.4%を1.3%下回りました。
- ③光熱水費は、重油料2億4,567万円、ガス料1,687万円、電気料6億113万円、水道料1億9,248万円、合計10億5,615万円となり前年度比1,603万円(1.5%)減少しました。
- ④修繕費は、施設修繕費1億3,115万円、機器備品修繕費2億1,479万円、合計3億4,594万円となり前年度比4,362万円(11.2%)減少しました。
- ⑤消耗品費9億5,211万円は、前年度比9,527万円(9.1%)減少しました。
- ⑥業務委託費38億4,609万円は、前年度比3億953万円(7.5%)減少しました。病院別では、附属病院医科21億1,708万円、歯科医療センター1億2,172万円、循環器医療センター3億2,969万円、花巻温泉病院1億4,004万円、その他11億3,756万円です。
- ⑦公租公課1億8,747万円は、消費税1億2,953万円、法人税・事業税等3,487万円、固定資産税・都市計画税1,925万円等です。
- ⑧福利費1億9,727万円は、学生福利費3,280万円、職員福利費1億6,447万円であり、健康診断経費等です。
- ⑨減価償却額36億2,833万円は、前年度より1億2,156万円増加しました。
- ⑩資産処分差額2億7,356万円は、土地の譲渡に伴い計上した不動産処分差額及び耐用年数が経過した資産未償却額の除却等です。

## 2. 資本収支

### (1) 資産の部

- ①施設関係支出は、建物6億3,470万円、建設仮勘定1億9,253万円等です。
- ②設備関係支出6億4,049万円は、教育研究用機器備品6億1,119万円等です。
- ③第2号基本金引当特定資産は、45億円を積み立て、21億5,553万円を取り崩しました。
- ④貯蔵品残高は、年度末に棚卸を行い調査した在庫分であり、医薬品・医療材料5億3,045万円、歯科貴金属372万円、合計5億3,417万円です。

### (2) 負債、純資産の部

- ①退職給与引当金残高103億3,391万円のうち49億636万円

は、平成23年度から10年間毎年度均等に繰り入れている退職給与引当金特別繰入額の累積額です。

- ②前受金残高15億7,730万円は、平成29年度入学生の学生生徒等納付金等です。
- ③預り金残高6億4,209万円は、源泉所得税5,867万円、県市町村民税1億696万円、私学共済掛金1億3,451万円等です。
- ④基本金は51億6,624万円を組入れし、1,164億7,056万円となりました。
- ⑤当年度収支差額△33億903万円と前年度繰越収支差額△232億5,824万円を合計した翌年度繰越収支差額は、△265億6,727万円となりました。
- ⑥純資産の部合計(基本金+繰越収支差額)は、前年度より18億5,721万円増加し、899億329万円となりました。
- ⑦平成28年度末現在で作成する財産目録純資産額(資産総額-負債総額)は899億329万円です。

### 平成28年度 事業活動収支計算書

(単位：千円)

区分	収入の部		支出の部	
	科目	金額	科目	金額
教育活動収支	学生生徒等納付金	8,632,940	人件費	21,692,610
	手数料	270,856	医療経費	14,811,089
	医療収入	35,223,026	消耗品費	952,114
	寄付金	1,220,344	光熱水費	1,056,153
	経常費等補助金	3,513,172	修繕費	345,943
	付随事業収入	1,517,363	業務委託費	3,846,091
	雑収入	1,019,641	減価償却額	3,628,332
			その他の諸経費等	2,732,838
	<b>教育活動収入計</b>	<b>51,397,342</b>	<b>教育活動支出計</b>	<b>49,065,170</b>
収支外	受取利息配当金	31,908		
	<b>教育活動外収入計</b>	<b>31,908</b>	<b>教育活動外支出計</b>	<b>0</b>
収特別	その他の特別収入	584,748	資産処分差額	273,557
			その他の特別支出	818,062
	<b>特別収入計</b>	<b>584,748</b>	<b>特別支出計</b>	<b>1,091,619</b>
	<b>事業活動収入合計</b>	<b>52,013,998</b>	<b>事業活動支出合計</b>	<b>50,156,789</b>
	<b>基本金組入額合計</b>		<b>△ 5,166,241</b>	
	<b>当年度収支差額</b>		<b>△ 3,309,032</b>	

### 平成28年度 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	8,632,940	人件費支出	21,797,930
手数料収入	270,856	諸経費支出	23,809,082
寄付金収入	1,616,583	施設関係支出	859,756
補助金収入	3,674,144	設備関係支出	640,490
付随事業収入	1,517,363	資産運用支出	4,500,100
医療収入	35,223,026	その他の支出	6,103,020
受取利息・配当金収入	31,908	資金支出調整勘定	△ 3,056,036
雑収入	1,019,752	翌年度繰越支払資金	21,032,059
前受金収入	1,577,302		
その他の収入	12,964,691		
資金収入調整勘定	△ 9,174,039		
前年度繰越支払資金	18,331,875		
<b>収入の部合計</b>	<b>75,686,401</b>	<b>支出の部合計</b>	<b>75,686,401</b>

### 貸借対照表 (平成29年3月31日)

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	76,144,112	固定負債	10,599,361
有形固定資産	53,749,730	流動負債	5,172,414
特定資産	22,278,302	負債の部合計	15,771,775
その他の固定資産	116,080	<b>純資産の部</b>	
流動資産	29,530,957	基本金	116,470,564
		繰越収支差額	△ 26,567,270
		純資産の部合計	89,903,294
<b>資産の部合計</b>	<b>105,675,069</b>	<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>105,675,069</b>

# 岩手医科大学創立120周年記念誌の頒布について

## 主な内容

### あいさつ

学校法人 岩手医科大学 理事長 小川 彰  
岩手医科大学 学 長 祖父江 憲治

### 祝 辞

岩手県知事 達増 拓也 氏  
学校法人 順天堂 理事長 小川 秀興 氏  
小岩井農牧(株) 代表取締役 熊澤 道彦 氏

### 巻頭特別対談

「岩手発 日本の医療を考える」  
国際ジャーナリスト 堤 未果 氏  
学校法人 岩手医科大学 理事長 小川 彰

### 建学の精神

学是 医療人たる前に、誠の人間たれ  
ヒポクラテスの樹  
校章・シンボルマーク  
俊次郎・定則の顕彰、他

### 期別年史

- 第1章 草創期【明治30年～昭和2年】
- 第2章 黎明期【昭和3年～昭和17年】
- 第3章 揺籃期【昭和17年～昭和30年】
- 第4章 拡充期【昭和31年～昭和62年】
- 第5章 発展期【昭和63年～平成15年】
- 第6章 躍進期【平成16年～平成28年】



### 特 集

- I. 東日本大震災津波
- II. 絵ハガキで辿る医大史
- III. 名物教授列伝
- IV. 部活動史
- V. 圭陵会史

■ 同記念誌は2,000円(税込)にて、下記により頒布致します。

#### 1. ゆうちょ銀行の「払込取扱票」による購入

- ①電話・メール等で創立120周年記念事業事務室に購入申込
- ②同室より「払込取扱票」を郵送
- ③「払込取扱票」により指定された大学の口座に入金
- ④入金確認後、同室より記念誌を郵送

#### 2. 内丸及び矢巾中キャンパスの丸善にて購入

(同店に記念誌を常備しております)  
内丸店(内線:3311)、矢巾店(内線:5306)

#### <担当>

創立120周年記念事業事務室  
Tel: 019-651-5110 (内線: 7022)  
Fax: 019-624-1231  
mail: anniv@j.iwate-med.ac.jp

## 表紙写真の解説



釜淵の滝は、花巻温泉病院から徒歩10分程のところであり、名勝に指定されたイーハトーブ風景地です。「釜淵」という名は、深く大きな滝壺の形からついたという説、岩盤が釜を伏せたような形をしているところから名付けられたとも言われています。高さ8.5m、幅30mの円い形でもっとこりとした大磐石の上を、台川の清らかな水が、玉すだれをかけたように数条に分かれ流れ落ちる様は、古くから人々に親しまれ、宮沢賢治の童話「台川」の舞台にもなっています。

釜淵の滝周辺の森林は1周20分程の遊歩道になっており、木漏れ日のなかを歩ける手ごろな散策コースです。

※ただし、熊にはご注意ください!!



# シリーズ 職場めぐり

## 睡眠医療学科

睡眠医療学科は2010年7月に新設された医学部の学科です。附属病院には診療を担当する「睡眠医療科」も併設されていますが、何をしている科(?)と思われるみなさんも多いと思います。主に睡眠に関連する疾患、例えば睡眠時無呼吸症候群、不眠症(眠れない)、過眠症(起きていられない)のほか、いわゆる夢遊病やむずむず脚症候群などの相談に応じています。

特に睡眠時無呼吸の診断や治療については外科や矯正歯科、糖尿病・代謝内科、精神神経科や神経内科とも連携し、軽症から重症例まで、国内トップクラスのトータルケアを提供しています。つまり、内科学を基礎とする「眠りの雑貨屋さんのような診療科」というわけです。医師は全員が睡眠医療の認定医で県内外には睡眠専門の開業OBもいます。

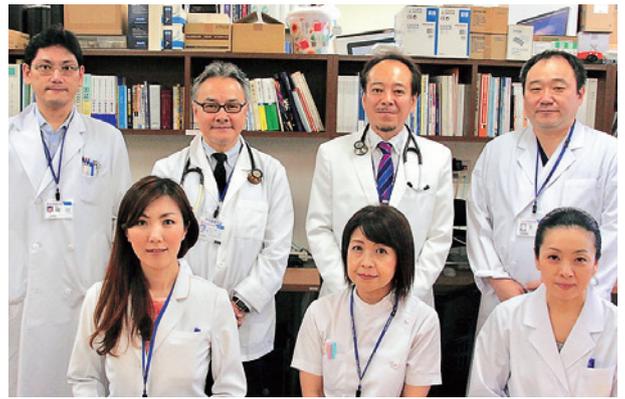
また、睡眠中の病気を見つけるのが仕事ですので、専門の検査技師や治療機器を管理するスタッフも常勤しています。職員のみなさんも、いびきや眠気で悩む方、眠れない方は気軽に相談してください。

毎年夏には市民公開講座、冬には県内の温泉で睡眠医療

合宿ミーティングを企画運営していて、どなたでも参加できますので、そちらも宜しく願います。皆さん、「健やかに眠れる人は美しい」を実践しましょう!

お問い合わせは [ssakurai@iwate-med.ac.jp](mailto:ssakurai@iwate-med.ac.jp)まで。

(教授 櫻井 滋)



## アイソトープ研究室

アイソトープ研究室は、基礎研究における非密封の放射性同位元素 (RI) を取扱う場所として、原子力規制委員会から許可を受けた学内唯一の施設です。現在、内丸キャンパスの7号館地下1階に設置され、室長1名と技術員2名が在籍しています。

RIの使用は、「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法令」(放射線障害防止法)により様々な制限を受けます。アイソトープ研究室の業務は、放射線障害防止法に基づく管理を行うことです。また、RIの使用者は、決められた項目と時間数の教育訓練を、初めて管理区域に立ち入る前とその後は定期的に受ける必要があります。それに関する講習会をそれぞれ年1回行っており、参加できなかった方については、個別に対応しています。

RIを使った研究に関するだけでなく、その他放射線

に関する心配事等ありましたら、お気軽にお声がけ下さい。  
(放射線技術員 清水 津志)



## 総合移転計画事務室

総合移転計画事務室は、矢中キャンパスへの総合移転に係る各種計画の推進及び内丸地区の跡地活用に関わる業務を中心として全8名体制で業務を行っております。

現在、総合移転整備計画は、平成31年の矢中新附属病院の開院に向けた取り組みを進めており、本年3月には病院本体工事に着手するとともに、工事の推進と併せて、各部門との詳細な設計図の打ち合わせや、内丸と矢中の診療体制の振り分けなど、運用の具体化に向けた各種検討を行っております。

矢中新附属病院及び内丸メディカルセンターの開院に向けては、まだまだ多くの検討課題が残っておりますが、各部門スタッフの皆さまの良いお知恵とご協力をいただきながら、「患者さんやスタッフにやさしい病院」のコンセプトとともに、「世界に冠たる病院」づくりの実現に向け、今後とも教職員の皆さまと一丸となって取り組んで参りたいと考えておりま

す。引き続き、関係各位からのご支援とご協力をお願い致します。

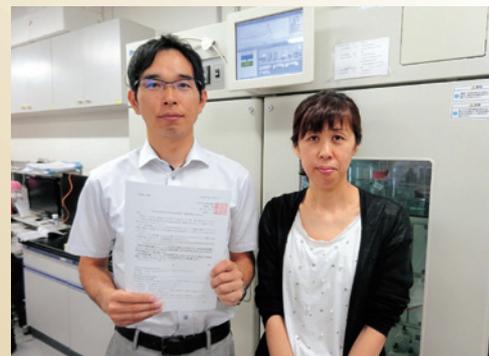
(室長 野中 尊史)





## 構造生物薬学講座 毛塚 雄一郎 助教の研究課題が 歯科基礎医学会若手研究者助成制度に採択されました

平成29年5月13日（土）に東京医科歯科大学歯学部特別講堂にて開催された歯科基礎医学会の若手研究者助成コンペティションで発表を行い、研究課題「*Fusobacterium nucleatum*における硫化水素産生機構の解明とその制御」を平成29年度の助成研究に採択していただきました。この研究では、口腔細菌における硫化水素産生機構を分子・原子レベルで解析するとともに、口臭や歯周病の進行を抑制する化合物の探索を目指しています。同学会の学術誌であるJournal of Oral BiosciencesのAssociate Editorを務める生理学講座病態生理学分野の佐原教授には、「歯周病に関する硫化水素産生酵素に対し、酵素学、構造生物学的ならびに反応速度的側面から多角的にアプローチする研究は他に類がなく高い評価をされたものと思われます。また、本学の薬学部と歯学部との連携による学部横断的な実りある共同研究に発展する可能性が大いに期待されます。」との評価をいただきました。これまで本研究にご協力いただいた皆様に感謝し、今後もさらに研究を発展させられるよう努めて行きたいと考えています。



毛塚助教（左）と  
研究に携わってきた熊谷聡子研究補手

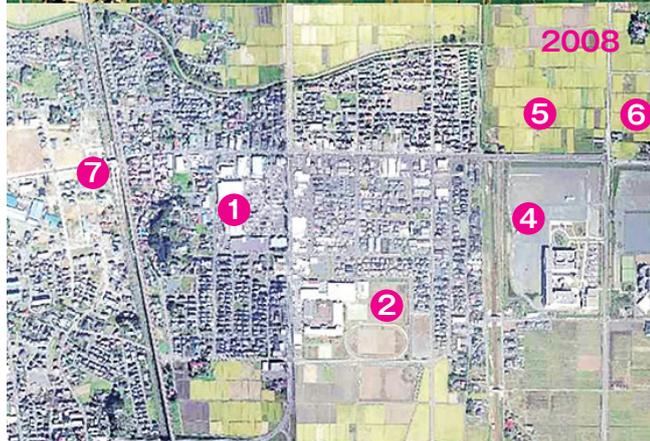
（文責：毛塚 雄一郎）

### 編集委員コーナー No.20

藤本 康之

presents

### ～ 変貌を遂げる矢巾町 ～



私は、薬学部開設にともなって、2007（平成19）年4月から矢巾町で暮らしています。こちらでの生活は早くも10年を過ぎましたが、矢巾町はこれまでに、どのように発展してきたのでしょうか。

上の写真は1976（昭和51）年9月当時のもので、今から41年前に撮影された矢巾町中心部の航空写真です。現在と比べて、住宅も施設もはるかに少なく、田んぼが青々としています。大規模スーパー（①）や不来方高校（②）もまだできていません。東北新幹線（昭和57年6月開業）は丁度建設中なのがわかります（③）。ちなみに、この頃私は小学校3年生で、父親の転勤により広島県広島市に引っ越したところでした。

下の写真は2008（平成20）年9月のもので、現在の様子にかなり近づいていますが、矢巾キャンパスはまだできたばかりで、校舎は東棟のみです（④）。病院用敷地（⑤）の整備や隣の商業施設（⑥）の建設はなされていません。矢幅駅の駅舎は、すでに新しい建物になっています（⑦）。

今後、新病院の完成にともなって矢巾町の町域はさらに発展していくものと思われますが、10年後、20年後はどうなっているのでしょうか。

出典：国土地理院ウェブサイト

(<http://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>)

番号等の表示は、加工によるものです。

# 新任教授の紹介

平成 29 年 6 月 1 日就任

医歯薬総合研究所 腫瘍生物学研究部門

**前沢 千早** (まえさわ ちはや)

昭和 38 年 9 月 30 日生

岩手県盛岡市出身



## 研究テーマ

・がんの生物学的特性の解明に基づく新規治療法の開発研究

## 主な著書論文

- ・進行期食道がんにおけるCDKN2遺伝子の不活化は遺伝子の欠失およびプロモーター領域のメチル化で誘導される (Cancer Res. 1996; 56: 3875-8.)
- ・家族性食道がんtylosis oesophageal cancer (TOC) の責任遺伝子座17q25.1は孤発性食道がんでも高頻度に欠失している (Gastroenterology. 1998; 114: 1206-10.)
- ・肝培養細胞および四塩化炭素肝硬変モデルでのエストロゲン投与によるテロメアの短縮予防効果の研究 (Gut. 2004; 53: 1001-9.)

## 趣味

スポーツ観戦

## 教職員への自己PR

医歯薬総合研究所は本院の矢巾キャンパス移転において、多くの方々に心地よい研究環境が提供できるように支援いたします。当部門の専門領域は腫瘍の遺伝子解析ですが、医師ばかりでなく、病院スタッフの皆様におかれましても、研究のスタートアップの窓口としてお気軽に御相談下さい。

## 経歴

昭和 63 年 岩手医科大学医学部卒業、同大学院入学  
平成 4 年 岩手医科大学大学院修了、同外科学第一講座入局  
平成 5 年 国立療養所盛岡病院勤務  
平成 12 年 岩手医科大学病理学第二講座 講師  
平成 16 年 同 助教授  
平成 21 年 岩手医科大学医歯薬総合研究所 腫瘍生物学研究部門 特任教授  
平成 29 年 6 月 現職

## 理事会報告 (5月定例ー5月29日開催)

1. 平成28年度事業報告について
2. 平成28年度決算及び監査報告について
3. 1号アパートの解体及び跡地活用について
4. 教員の人事について

医歯薬総合研究所 腫瘍生物学研究部門 教授  
前沢 千早 (前 同部門 特任教授)

- 統合基礎講座 医学教育学講座医学教育学分野 特任教授  
田島 克巳 (前 同分野 准教授)  
(発令年月日 平成29年6月1日)
5. 6月期末勤勉手当等の支給について
  6. 臨時職員就業規則の一部改正について
  7. 病院付属施設(店舗棟・テナント棟)及び対がん協会の建設場所について
  8. ホテル事業候補者の選定について



## 頭頸部癌は予防できる？

みなさん、頭頸部癌と聞いてどんなことを思い浮かべるでしょうか？最近巷で話題になっている喉頭癌それとも咽頭癌？

実は頭頸部癌ほど原因がよくわかっていて、これさえなければ癌にならなかったのと思う悪性腫瘍はないと思われまます。今回は頭頸部癌の原因とその予防について考えてみましょう。

まず、喫煙です。タバコの害は実に様々ですが、発癌に関して言えば、喉頭癌と喫煙との関連はあらゆる癌種の中で最も高く、喫煙量に比例しており、肺癌と比べても疫学的に7~8倍の高率で癌になりやすくなります。問題は間接喫煙です。私たちの病棟で喉頭癌の手術を行った患者さんでも、自分では喫煙歴がない方を時々経験しますが、いずれも家族や同僚にヘビースモーカーがいます。

飲酒も食道癌と同様、口腔癌や咽頭癌で直接癌化に関連することが明らかになっています。誰でも飲酒すればアルコール摂取量に比例して、これらの癌になる確率が高くなりますが、日本人は特殊な事情でさらに癌化の確率が高くなっています。詳細は紙面の関係で省きます

が、お酒を飲んですぐ顔が赤くなる人（フラッシャーと呼んでいます。日本人だと二人に一人弱ぐらいの割合です）は、そうで無い人の約10倍癌になる確率が高くなります。

機械的な刺激や感染が関与すると考えられている癌もあります。舌癌は必ず舌縁と呼ばれる左右の脇の方にできますが、これは歯との機械的な接触が長期間続く結果と考えられています。特にう歯や義歯が舌や口腔内の粘膜に当たっている場合は注意が必要です。また、外耳道癌と耳かきの関係も指摘されています。

ウイルス感染と関連する癌があります。エプシュタイン・バーウイルス（EBV）による上咽頭癌、ヒト乳頭腫ウイルス（HPV）による中咽頭癌などがあり、特に最近では性行動と関連するといわれているHPV関連の中咽頭癌が世界的に増加傾向を示しており、子宮頸癌との異同、HPVワクチンとの関係もあって注目を集めています。

いかがでしたでしょうか？実は頭頸部癌の殆どは喫煙や飲酒など日常の行動に関連したり、虫歯や歯並びなどの口腔の問題、ウイルス感染に関連していることを記しました。禁煙や節酒、口腔内の衛生の保持などで頭頸部癌は予防できそうです。

### 編集後記

本号の表紙は水と緑のとても涼やかな風景で、水の流れや風の音も聞こえてくるようでした。岩手には素晴らしい自然がたくさんありますね。

特集はラジオ番組「いのちから」です。私自身も先日出演させていただきましたが、ナビゲーターの小田さんの優しく明るい雰囲気助けられ、収録時間があっという間でした。岩手医大の幅広い専門分野の皆様からのわかりやすいお話を、ぜひ多くの方々に聞いていただきたいと思いました。

（編集委員 藤澤 美穂）

### 《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰	佐藤真結美
影山 雄太	菊池 初子
松政 正俊	米澤 裕司
齋野 朝幸	熊谷 佑子
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木 忠司
成田 欣弥	畠山 正充
遊田由希子	菅原 侑子
佐藤 仁	武藤千恵子
小坂 未来	高橋 慶
藤澤 美穂	

### 岩手医科大学報 第490号

発行年月日 平成29年7月31日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL. 019-651-5111（内線7023）

FAX. 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.wate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp